

# 授業改善等に関する報告書（2022年前期）短期大学部

## 授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2022 (前期) 日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック		
コース名	教員名	教員からのコメント
ことばと生活	大塚 みさ	<p>月曜1限にもかかわらず、受講生のみなさんが健闘してくれたことを何よりうれしく感じています。授業内でディスカッションを多く行うため、講義の一部を事前配信動画で配信する「プチ反転授業」でしたが、多くの学生がウォーミングアップを済ませて出席していたので、グループワークを円滑に行うことができました。授業への満足度はみなさんの努力の成果だと感じています。</p> <p>毎回の事後学修課題の提出率も高く、内容も充実していて、毎回感心させられました。ただし、「期限が早い」という声もありましたので、次年度は授業内で振り返れる時間を設けて、負担を軽減します。</p> <p>自由記述からは、ことばや日本語についての理解と関心が高まったことを具体的に書いてくれる学生が多かったですが、それ以上にうれしかったのはグループワークで意見を共有できたことへの言及でした。</p> <p>レポートのフィードバックも公開していますので、ぜひ確認してください。</p>
コミュニケーションスキル入門	鹿島 千穂	<p>今年度は授業内容をアップデートし、新たにディベートを導入しました。大部分の項目で平均を上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。一方で、予習復習時間にバラツキがあったことが気になります。この結果を踏まえ、次年度以降の授業内容にも工夫を凝らしていこうと考えています。</p>
ノンバーバルコミュニケーション論	西脇 智子	<p>多くの項目で平均を上回り、授業に対する自己評価が高かったこと、成長を実感できたことは、大変励みになりました。毎年、内容は変化していくこととなりますが、説明の分かりやすさなど、高評価を得た部分を参考にして、次年度以降も取り組んで行ければと思います。</p>
ビジネストーク演習 (③)	鹿島 千穂	<p>大部分の項目で平均を上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。説明のわかりやすさや声の聞き取りやすさ等の高評価を得た点は、本授業を通してみなさんに身につけてもらいたいスキルでもありました。教員としてデモンストレーションできたことに満足しています。この結果を踏まえ、次年度以降も工夫して授業を展開していきたいと考えています。</p>
ビジネストーク演習 (④)	鹿島 千穂	<p>大部分の項目で平均を上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。満点 (5.00) の評価を得た、説明のわかりやすさや声の聞き取りやすさは、本授業を通してみなさんに身につけてもらいたいスキルでもありました。教員としてデモンストレーションできたことに満足しています。この結果を踏まえ、次年度以降も工夫して授業を展開していきたいと考えています。</p>
ライティングスキルa	鹿島 千穂	<p>大部分の項目で平均を上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。また、予習復習時間が平均を上回っていたことから、執筆課題に対してみなさんが精一杯取り組んだことが見てとれます。オンデマンド授業には未だ改善の余地があるため、この結果を踏まえて次年度以降も工夫して授業を展開していきたいと考えています。</p>
ライティングゼミa	高瀬 真理子	<p>コラムを書くということそのものは、大変に知的な作業で、半期もので身につくものではありませんが、文章構成を考えて文章を彫琢するという姿勢を身につけることが授業の目標であり、それを体感することが重要でした。その目標には到達でき、受講生も苦勞しながら成長できたことは間違いないと思います。</p>
医療とコミュニケーション	西脇 智子	<p>多くの項目で平均を上回り、授業に対する自己評価が高かったこと、成長を実感できたことは、大変励みになりました。毎年、内容は変化していくこととなりますが、高評価を得た部分を参考にして、次年度以降も意欲的に取り組んでいただくことができますよう工夫して参りたく思います。</p>
小説と戯曲の世界	高瀬 真理子	<p>谷崎潤一郎について、知らない・読んだことがないところから出発して、小説と戯曲の違いまでを教授するのは、正直骨が折れました。</p> <p>しかし、少なくとも谷崎の文学的特徴はよくつかんでくれたものと思います。芝居を見る機会も減っている中での戯曲の講読は、この先も課題になりそうです。</p>
卒業研究 a (①)	高瀬 真理子	<p>個別指導でバラバラにならないように緩やかにグループを組んで、研究を開始しました。できるだけ個人々に合わせて目配りをしたつもりです。</p> <p>中間発表では、そこそここのところには到達できたように思っています。</p> <p>道半ばですが、後期への課題をそれぞれがしっかり受け止めてくれているなら、それが何よりかと思えます。</p>

[2022 (前期) 日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック		
コース名	教員名	教員からのコメント
卒業研究 a (②-1)	大塚 みさ	ゼミメンバー15名が、切磋琢磨しあって力を伸ばせた半年間でした。特に「テーマ報告会」から「中間報告」へのプレゼン力の伸長具合は「半端ない」ものでした。アンケートでも「成長を実感できた」について「とても良く当てはまる」という回答が約82%でした。 さらに自由記述欄には、自分が達成できたことに加えて「他の学生の発表を聞いて学べた」「他者と積極的なディスカッションを行うスキルが身についた」といった発言が見られ、共に学ぶ姿勢がしっかりと定着していることをうれしく感じました。 後期の「卒業研究b」でもさらに大きく成長していけるよう、一人ひとりへの細やかな指導を行っていきます。
卒業研究 a (②-2)	大塚 みさ	前期は2回の発表機会がありましたが、一人ひとりが工夫を凝らして研究を進めることができました。アンケートの回答者は半数強と少なめでしたが、大半の学生が成長を実感したと回答してくれていたのうれしく思いました。 一方、極少数でしたが、説明や資料が分かりづらかったという声がありました。この点については、後期の「卒業研究b」では改善を図ります。
卒業研究 a (③)	鹿島 千穂	大部分の項目で平均を上回り、受講生のみなさんが「授業を通して成長を実感できた」と回答したことを嬉しく思います。説明のわかりやすさや双方向授業等の工夫などの高評価を得た点は、後期の「卒業研究b」でも意識的に取り組み、卒研レポートの執筆指導を行っていきたく考えています。
卒業研究 a (④)	橋詰 秋子	担当教員としては初めて受け持つ卒業研究の科目でしたが、全ての項目で全体平均を上回る評価がでており、嬉しく思います。前期は、個人作業よりもグループワークを多めに設ける内容としましたが、それが高評価につながったと考えます。後期や次年度以降も工夫して取り組んでいきます。
日本語学入門 a	大塚 みさ	テキストを読んで予習・復習を行い、授業冒頭で小テストを行うというスタイルでしたが、毎回全力で取り組むことができました。少し難しいトピックもありましたが、説明用のスライド作成に力を入れたので、「わかりやすい」という声が多く安堵しました。 自由記述では、日本語のさまざまなポイントについて理解と関心を深められたという声が多く、うれしく思いました。外国語との比較も楽しんでもらえたようで光栄です。 一方、質問のしやすさについては、改善が必要だと感じました。授業後に十分な時間が取れず、事後学修課題のresponに書き込めるようにしていましたが、「日本語学入門b」および次年度の同一科目においては、十分な質問時間を確保して対応します。
日本文学の歴史 a 古代	福島 史子	授業の内容以前に、設問10. 聞き取りやすかったかが比較的高評価であったことにまずホッとしております。コロナ禍対策のため教室のドアを開け放っていたので私の声が皆さんに届くか些か不安でした。「他のクラスや外を通る学生の声に埋もれること無く聞き取れた」という声があったのは学生の方々にも懸念があったためでしょう。 内容にかかわる面では、全体的に平均よりも低い評価であることに力不足を感じております。 殊に予習復習時間が少なかったことは残念です(設問2.) 予め授業前にプリントをmanabaに載せ、また改めて授業時にプリントを配布して、事前・事後学修をお願いしたのですが……。課題を課す等工夫するべきだったでしょう。 これが設問4. 授業の理解度にも響いていると思われる。設問7. 説明のわかりやすさ も低い評価でしたが、設問12. 具体的に成長を実感したこと および 設問19. 授業を受けて良かったことや…… に「日本文学の凄さ、日本人の美意識について知ることができた」、「古代文学について資料を交えて体系的に学ぶことができた」、「源氏物語や枕草子は知っていても授業を受けて知らなかった点などを学べた」、「和歌の成り立ちや物語文学、日記文学についての知識が深まった」等の声も寄せられました。また「和歌に対する興味を持てるようになった」という感想もありました。日本古典文学および文化の基盤と言える側面をもつ和歌に関心を持っただけなのは嬉しく思われます。今後はさらに内容を厳選し、噛み砕いて説明して大方の理解を得られるようよう努めたいと思います。一方で、「やや難しい」が「おもしろい」くらいの授業もよいのではないかとも思われるのですが……。  今後の課題としてフィードバックの方法が挙げられます。皆さんにコメントシートを書いてもらって翌週、興味深い意見・感想・質問等は授業で紹介したのですが、あと一工夫考えたいと思います。なお、「コメントシートで自分の気になったことや考えたことを書くことで、その話の注目すべき点などを発見する力が身についた」という声も寄せられた点は一つの成果と言えます。 この授業を契機に、上代・中古文学の作品を少しずつでも実際に読んでいただけたら幸いです。そうすることによって文学史に対する興味も深まると思われるのです。 皆さん、コロナ禍の中、私の対面授業にお付き合いいただき、また定期試験を受けてくださってありがとうございました。お礼申し上げます。

[2022 (前期) 日本語コミュニケーション学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
日本文学の歴史 〇近代	高瀬 真理子	資料は自ら読んで理解するものという姿勢を貫いたことがわかりにくいと捉えられたのでしょうか。 目先を分かりやすくすること、実際に資料を読んで考える力をつけることの狭間で工夫を重ねたいと思います。
文学とコミュニケーション	高瀬 真理子	本文を示しながら、講読を進めるような形にしていますが、 もう一段、分かりやすくする工夫をしていきたいと思います。 おそらく、一葉作品で会話にカギ括弧をつけたものを見せたように、こちらが料理した後を見せないと理解にばらつきが出るのだと思います。